

## 第2回県民モニターアンケート「福祉のまちづくりの推進について」の調査結果

第2回県民モニターアンケート調査の調査結果をとりまとめました。アンケート結果は、「福祉のまちづくり基本方針」の改定の基礎資料として活用します。

### 1 調査概要

- (1) 調査テーマ：福祉のまちづくりの推進について
- (2) 調査対象者：県民モニター2,232人
- (3) 調査期間：令和7年7月18日（金）  
～7月28日（月）[11日間]
- (4) 調査方法：web上のアンケートフォーム  
に入力
- (5) 回答者数：1,621人（回答率72.6%）

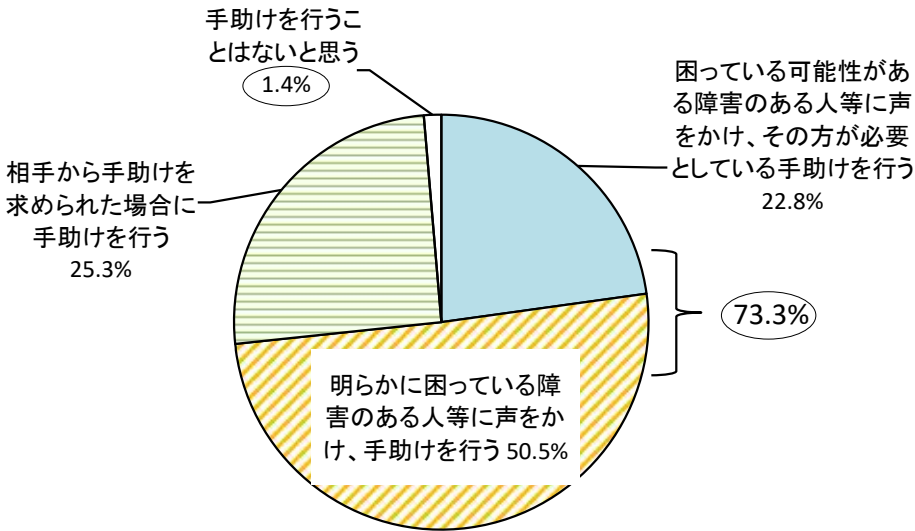
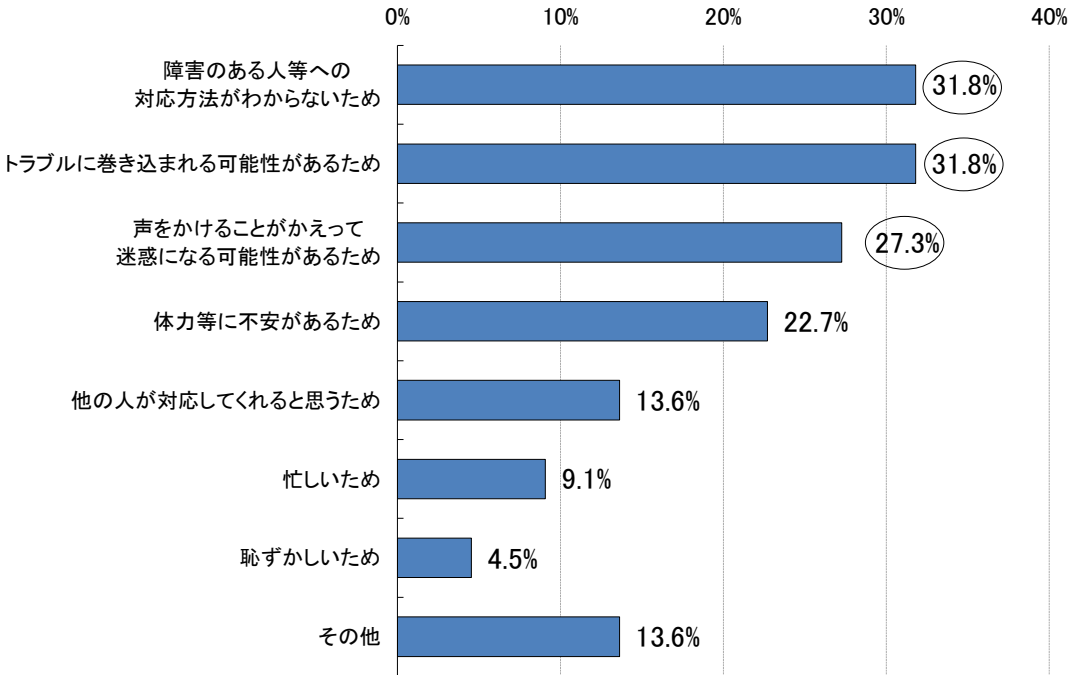
		対象者	回答者	回答率
総 数		2,232	1,621	72.6%
性別	男 性	983	735	74.8%
	女 性	1,242	881	70.9%
	不 明	7	5	71.4%
年代別	10～20代	76	41	53.9%
	30代	168	98	58.3%
	40代	346	217	62.7%
	50代	532	386	72.6%
	60代	527	429	81.4%
	70代以上	583	450	77.2%

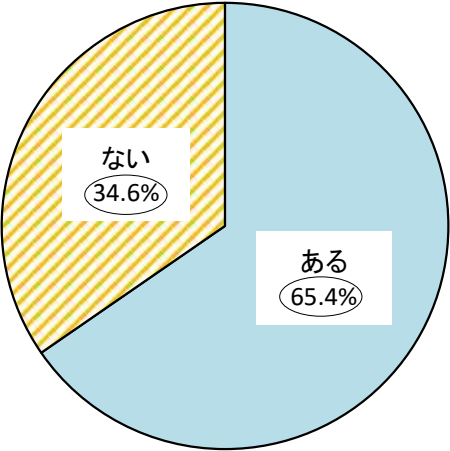
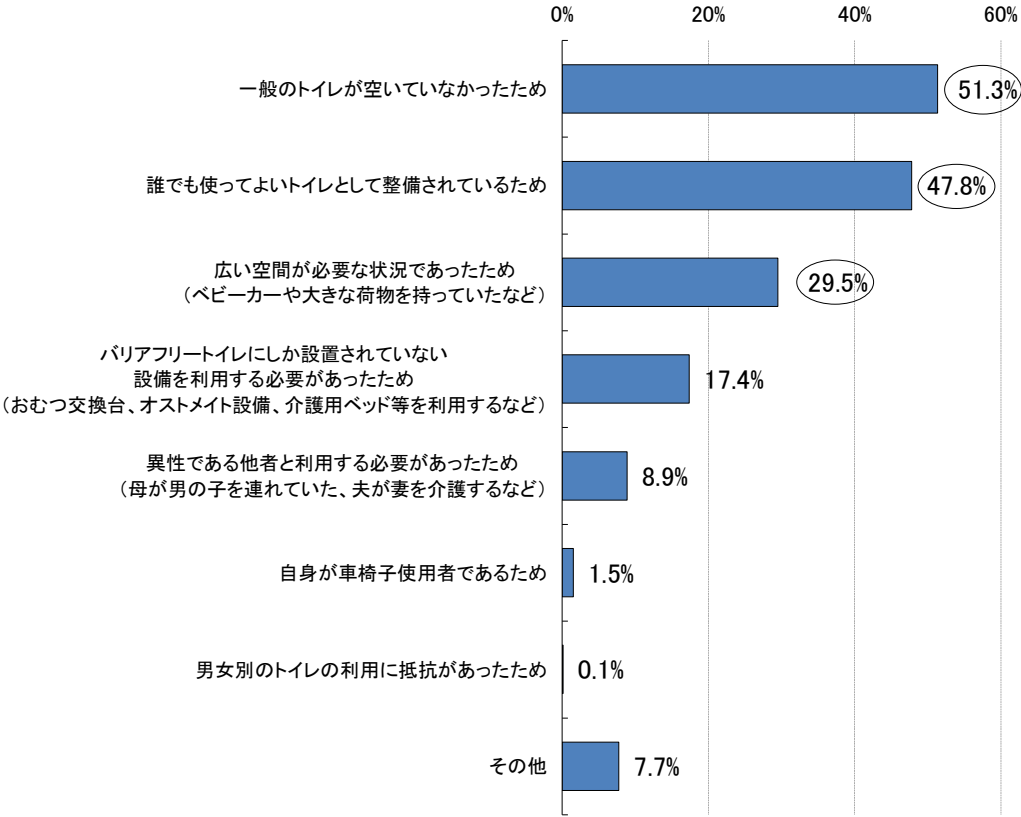
### 2 調査結果の概要

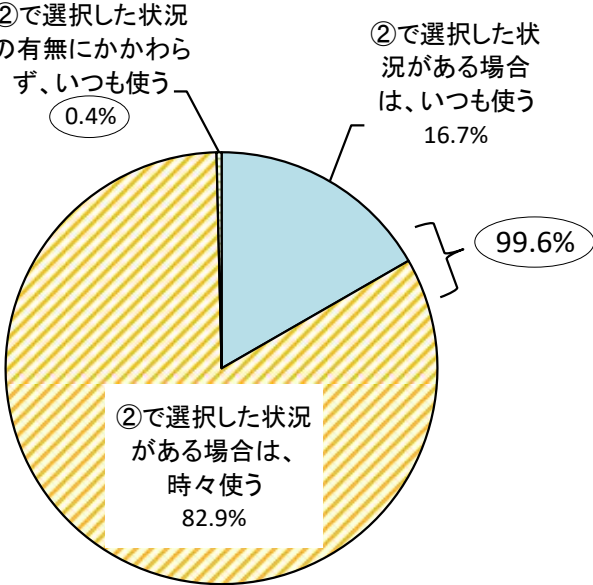
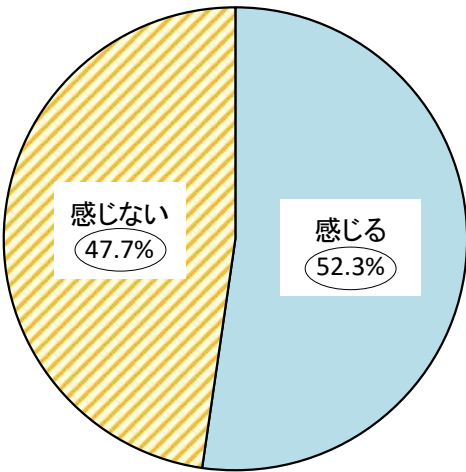
項目	アンケート結果			
バリアフリーなどの言葉の認知度  Q1 あなたは、(1)～(4)の項目について、言葉や考え方を知っていますか。  (1つ選択)	『バリアフリー』『ユニバーサルデザイン』『心のバリアフリー』では「言葉も考え方も知っている」が最も多くなっている。			
	『障害の社会モデル』では「全く知らない」が最も多くなっている。			
	(%)			
		も言葉も知っている方	方あるが、知らない	全く知らない
	(1) バリアフリー	92.8%	7.0%	0.2%
	(2) ユニバーサルデザイン	76.2%	21.2%	2.6%
(3) 心のバリアフリー	49.4%	35.2%	15.4%	
(4) 障害の社会モデル	21.2%	38.5%	40.3%	

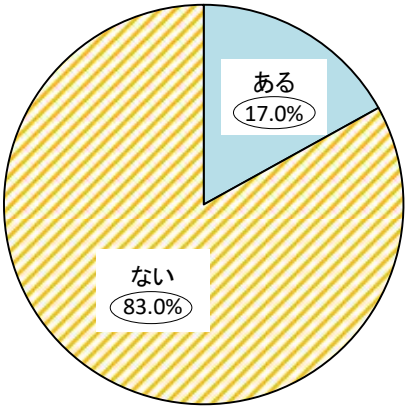
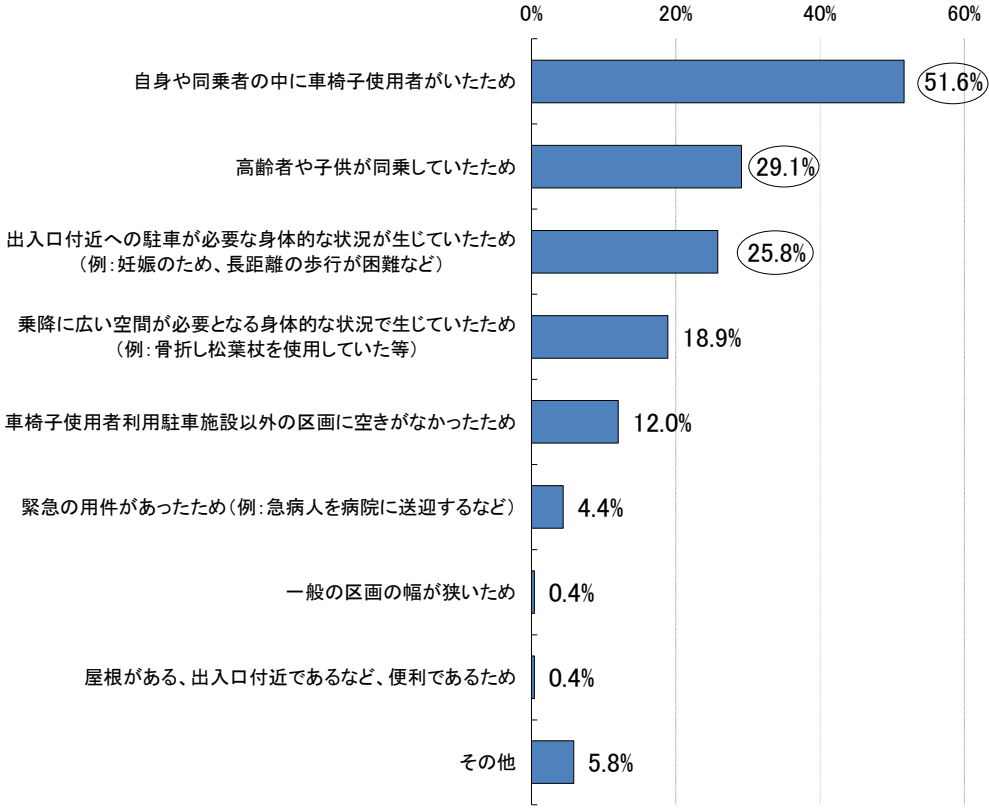
項目	アンケート結果								
<p>(1) バリアフリー：日常生活や社会生活における物理的、心理的な障害や、情報に関わる障壁などを取り除いていくことです。</p>	<div data-bbox="389 208 601 262" data-label="Section-Header"> <p>バリアフリー</p> </div> <div data-bbox="638 383 1157 920" data-label="Figure"> <p>A pie chart illustrating the awareness of barrier-free concepts. The chart is divided into three segments: a large light blue segment representing '言葉も考え方も知っている' (Know both words and concepts) at 92.8%, a smaller yellow segment with diagonal lines representing '聞いたことはあるが、考え方は知らない' (Know words but not concepts) at 7.0%, and a very thin white segment representing '全く知らない' (Know nothing) at 0.2%.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言葉も考え方も知っている</td> <td>92.8%</td> </tr> <tr> <td>聞いたことはあるが、考え方は知らない</td> <td>7.0%</td> </tr> <tr> <td>全く知らない</td> <td>0.2%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	回答内容	割合	言葉も考え方も知っている	92.8%	聞いたことはあるが、考え方は知らない	7.0%	全く知らない	0.2%
回答内容	割合								
言葉も考え方も知っている	92.8%								
聞いたことはあるが、考え方は知らない	7.0%								
全く知らない	0.2%								
<p>(2) ユニバーサルデザイン：障害の有無、年齢、性別、国籍などにかかわらず、多様な人が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインする考え方です。</p>	<div data-bbox="389 1149 601 1247" data-label="Section-Header"> <p>ユニバーサルデザイン</p> </div> <div data-bbox="592 1377 1157 1892" data-label="Figure"> <p>A pie chart illustrating the awareness of universal design concepts. The chart is divided into three segments: a large light blue segment representing '言葉も考え方も知っている' (Know both words and concepts) at 76.2%, a yellow segment with diagonal lines representing '聞いたことはあるが、考え方は知らない' (Know words but not concepts) at 21.2%, and a small white segment representing '全く知らない' (Know nothing) at 2.6%.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言葉も考え方も知っている</td> <td>76.2%</td> </tr> <tr> <td>聞いたことはあるが、考え方は知らない</td> <td>21.2%</td> </tr> <tr> <td>全く知らない</td> <td>2.6%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	回答内容	割合	言葉も考え方も知っている	76.2%	聞いたことはあるが、考え方は知らない	21.2%	全く知らない	2.6%
回答内容	割合								
言葉も考え方も知っている	76.2%								
聞いたことはあるが、考え方は知らない	21.2%								
全く知らない	2.6%								

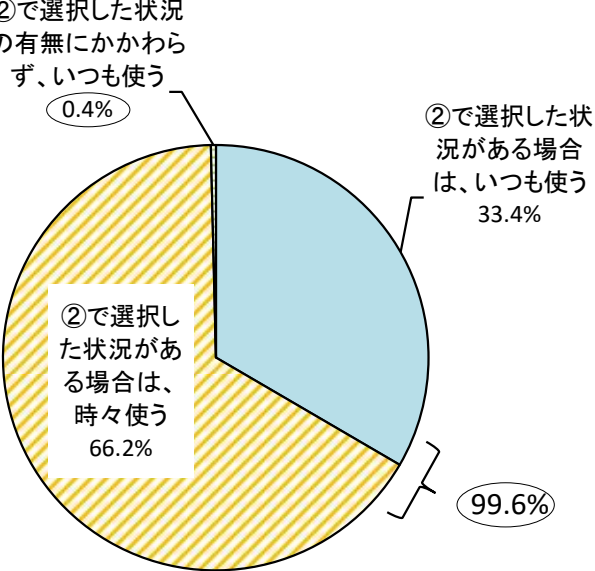
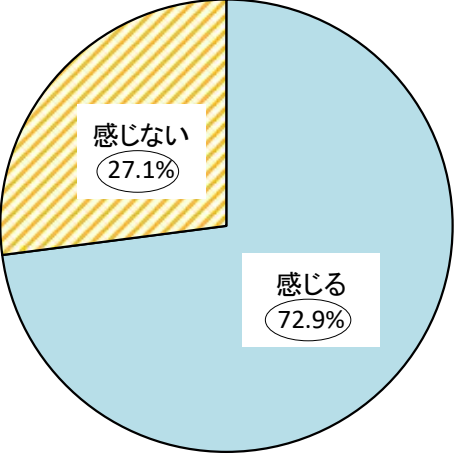
項目	アンケート結果								
<p>(3) 心のバリアフリー:様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解するとともに、理解を深めようとコミュニケーションを取り支え合うことです。</p>	<div data-bbox="395 208 665 264" data-label="Section-Header"> <p>心のバリアフリー</p> </div> <div data-bbox="571 425 1150 918" data-label="Figure"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言葉も考え方も知っている</td> <td>49.4%</td> </tr> <tr> <td>聞いたことはあるが、考え方は知らない</td> <td>35.2%</td> </tr> <tr> <td>全く知らない</td> <td>15.4%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	回答内容	割合	言葉も考え方も知っている	49.4%	聞いたことはあるが、考え方は知らない	35.2%	全く知らない	15.4%
回答内容	割合								
言葉も考え方も知っている	49.4%								
聞いたことはあるが、考え方は知らない	35.2%								
全く知らない	15.4%								
<p>(4) 障害の社会モデル:「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除き、障害のある人の主体的な完全参加を目指すことは社会全体の責務である、とする考え方です。</p>	<div data-bbox="395 1149 668 1205" data-label="Section-Header"> <p>障害の社会モデル</p> </div> <div data-bbox="660 1344 1219 1881" data-label="Figure"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全く知らない</td> <td>40.3%</td> </tr> <tr> <td>聞いたことはあるが、考え方は知らない</td> <td>38.5%</td> </tr> <tr> <td>言葉も考え方も知っている</td> <td>21.2%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	回答内容	割合	全く知らない	40.3%	聞いたことはあるが、考え方は知らない	38.5%	言葉も考え方も知っている	21.2%
回答内容	割合								
全く知らない	40.3%								
聞いたことはあるが、考え方は知らない	38.5%								
言葉も考え方も知っている	21.2%								

項目	アンケート結果																		
<p><b>障害のある人等を見かけたときの対応</b></p> <p>Q2 まちや駅などで、障害のある人等（障害のある人、高齢者、妊婦、乳幼児連れの方など）を見かけたとき、どのような対応をしたことがある、又はしようとして心がけていますか。</p> <p>（1つ選択）</p>	<p>障害のある人等に『声をかけ、手助けを行う』（「困っている可能性がある障害のある人等に声をかけ、その方が必要としている手助けを行う」＋「明らかに困っている障害のある人等に声をかけ、手助けを行う」）と答えた人が73.3%と大半を占めている。一方、『手助けを行うことはないと思う』と答えた人は1.4%であった。</p>  <table border="1"> <caption>Q2 アンケート結果 (割合)</caption> <thead> <tr> <th>対応方法</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>困っている可能性がある障害のある人等に声をかけ、その方が必要としている手助けを行う</td> <td>22.8%</td> </tr> <tr> <td>明らかに困っている障害のある人等に声をかけ、手助けを行う</td> <td>50.5%</td> </tr> <tr> <td>相手から手助けを求められた場合に手助けを行う</td> <td>25.3%</td> </tr> <tr> <td>手助けを行うことはないと思う</td> <td>1.4%</td> </tr> <tr> <td><b>合計（上記2項目）</b></td> <td><b>73.3%</b></td> </tr> </tbody> </table>	対応方法	割合	困っている可能性がある障害のある人等に声をかけ、その方が必要としている手助けを行う	22.8%	明らかに困っている障害のある人等に声をかけ、手助けを行う	50.5%	相手から手助けを求められた場合に手助けを行う	25.3%	手助けを行うことはないと思う	1.4%	<b>合計（上記2項目）</b>	<b>73.3%</b>						
対応方法	割合																		
困っている可能性がある障害のある人等に声をかけ、その方が必要としている手助けを行う	22.8%																		
明らかに困っている障害のある人等に声をかけ、手助けを行う	50.5%																		
相手から手助けを求められた場合に手助けを行う	25.3%																		
手助けを行うことはないと思う	1.4%																		
<b>合計（上記2項目）</b>	<b>73.3%</b>																		
<p><b>障害のある人等に手助けを行わない理由</b></p> <p>Q3 その理由は何ですか。</p> <p>（3つまで選択可）</p> <p>※[Q2]で「手助けを行うことはないと思う」と回答した人</p> <p>22人（1.4%）に質問</p>	<p>「障害のある人等への対応方法がわからないため（31.8%）」、「トラブルに巻き込まれる可能性があるため（31.8%）」が多く、次いで「声をかけることがかえって迷惑になる可能性があるため（27.3%）」が続いている。</p>  <table border="1"> <caption>Q3 アンケート結果 (割合)</caption> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>障害のある人等への対応方法がわからないため</td> <td>31.8%</td> </tr> <tr> <td>トラブルに巻き込まれる可能性があるため</td> <td>31.8%</td> </tr> <tr> <td>声をかけることがかえって迷惑になる可能性があるため</td> <td>27.3%</td> </tr> <tr> <td>体力等に不安があるため</td> <td>22.7%</td> </tr> <tr> <td>他の人が対応してくれると思うため</td> <td>13.6%</td> </tr> <tr> <td>忙しいため</td> <td>9.1%</td> </tr> <tr> <td>恥ずかしいため</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>13.6%</td> </tr> </tbody> </table>	理由	割合	障害のある人等への対応方法がわからないため	31.8%	トラブルに巻き込まれる可能性があるため	31.8%	声をかけることがかえって迷惑になる可能性があるため	27.3%	体力等に不安があるため	22.7%	他の人が対応してくれると思うため	13.6%	忙しいため	9.1%	恥ずかしいため	4.5%	その他	13.6%
理由	割合																		
障害のある人等への対応方法がわからないため	31.8%																		
トラブルに巻き込まれる可能性があるため	31.8%																		
声をかけることがかえって迷惑になる可能性があるため	27.3%																		
体力等に不安があるため	22.7%																		
他の人が対応してくれると思うため	13.6%																		
忙しいため	9.1%																		
恥ずかしいため	4.5%																		
その他	13.6%																		

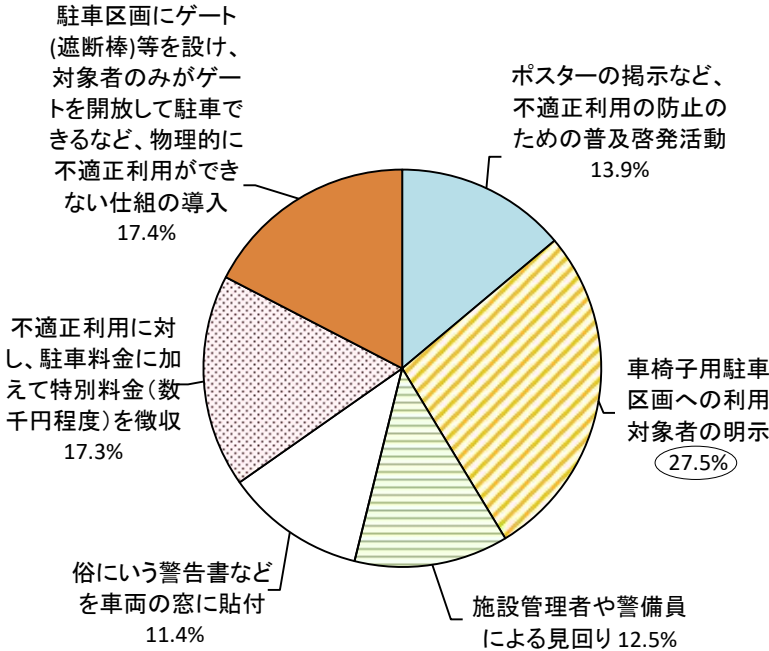
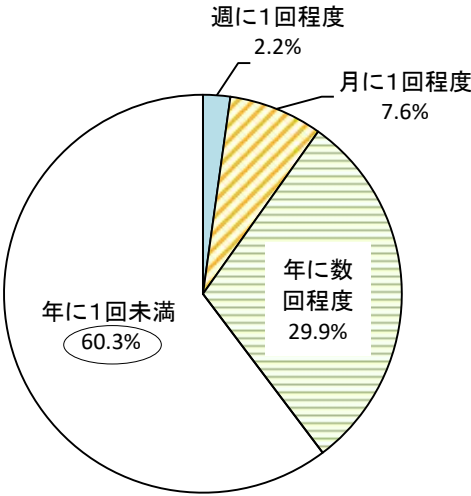
項目	アンケート結果																		
<p><b>バリアフリースイールの利用実態</b></p> <p>Q4 バリアフリースイール（多目的トイレ、車椅子使用者用トイレとも呼ばれる）について</p> <p>Q4-①バリアフリースイールを利用したことがありますか。</p> <p>（1つ選択）</p>	<p>バリアフリースイールを利用したことが「ある」と答えた人が 65.4%と大半を占めている。一方、「ない」と答えた人は 34.6%であった。</p>  <table border="1"> <caption>Q4-① バリアフリースイールを利用したことがありますか。</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ある</td> <td>65.4%</td> </tr> <tr> <td>ない</td> <td>34.6%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	ある	65.4%	ない	34.6%												
回答	割合																		
ある	65.4%																		
ない	34.6%																		
<p>Q4-②なぜ利用したかを教えてください。</p> <p>（3つまで選択可）</p> <p>※[Q4-①]で「ある」と回答した人</p> <p>1,060人（65.4%）に質問</p>	<p>「一般のトイレが空いていなかったため（51.3%）」が最も多く、次いで「誰でも使ってよいトイレとして整備されているため（47.8%）」、「広い空間が必要な状況であったため（ベビーカーや大きな荷物を持っていたなど）（29.5%）」が続いている。</p>  <table border="1"> <caption>Q4-② なぜ利用したかを教えてください。</caption> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般のトイレが空いていなかったため</td> <td>51.3%</td> </tr> <tr> <td>誰でも使ってよいトイレとして整備されているため</td> <td>47.8%</td> </tr> <tr> <td>広い空間が必要な状況であったため（ベビーカーや大きな荷物を持っていたなど）</td> <td>29.5%</td> </tr> <tr> <td>バリアフリースイールにしか設置されていない設備を利用する必要があったため（おむつ交換台、オストメイト設備、介護用ベッド等を利用するなど）</td> <td>17.4%</td> </tr> <tr> <td>異性である他者と利用する必要があったため（母が男の子を連れていた、夫が妻を介護するなど）</td> <td>8.9%</td> </tr> <tr> <td>自身が車椅子使用者であるため</td> <td>1.5%</td> </tr> <tr> <td>男女別のトイレの利用に抵抗があったため</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>7.7%</td> </tr> </tbody> </table>	理由	割合	一般のトイレが空いていなかったため	51.3%	誰でも使ってよいトイレとして整備されているため	47.8%	広い空間が必要な状況であったため（ベビーカーや大きな荷物を持っていたなど）	29.5%	バリアフリースイールにしか設置されていない設備を利用する必要があったため（おむつ交換台、オストメイト設備、介護用ベッド等を利用するなど）	17.4%	異性である他者と利用する必要があったため（母が男の子を連れていた、夫が妻を介護するなど）	8.9%	自身が車椅子使用者であるため	1.5%	男女別のトイレの利用に抵抗があったため	0.1%	その他	7.7%
理由	割合																		
一般のトイレが空いていなかったため	51.3%																		
誰でも使ってよいトイレとして整備されているため	47.8%																		
広い空間が必要な状況であったため（ベビーカーや大きな荷物を持っていたなど）	29.5%																		
バリアフリースイールにしか設置されていない設備を利用する必要があったため（おむつ交換台、オストメイト設備、介護用ベッド等を利用するなど）	17.4%																		
異性である他者と利用する必要があったため（母が男の子を連れていた、夫が妻を介護するなど）	8.9%																		
自身が車椅子使用者であるため	1.5%																		
男女別のトイレの利用に抵抗があったため	0.1%																		
その他	7.7%																		

項目	アンケート結果										
<p>Q4-③バリアフリートイレを利用する頻度を教えてください。</p> <p>(1つ選択)</p> <p>※[Q4-①]で「ある」と回答した人</p> <p>1,060人(65.4%)に質問</p>	<p>②で選択した状況がある場合は、『使う』(「いつも使う」+「時々使う」)と答えた人が99.6%であった一方、「②で選択した状況の有無にかかわらず、いつも使う」と答えた人は0.4%であった。</p>  <table border="1"> <caption>Q4-③ バリアフリートイレの利用頻度</caption> <thead> <tr> <th>利用頻度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②で選択した状況がある場合は、いつも使う</td> <td>16.7%</td> </tr> <tr> <td>②で選択した状況がある場合は、時々使う</td> <td>82.9%</td> </tr> <tr> <td>②で選択した状況の有無にかかわらず、いつも使う</td> <td>0.4%</td> </tr> <tr> <td><b>合計 (いつも使う + 時々使う)</b></td> <td><b>99.6%</b></td> </tr> </tbody> </table>	利用頻度	割合	②で選択した状況がある場合は、いつも使う	16.7%	②で選択した状況がある場合は、時々使う	82.9%	②で選択した状況の有無にかかわらず、いつも使う	0.4%	<b>合計 (いつも使う + 時々使う)</b>	<b>99.6%</b>
利用頻度	割合										
②で選択した状況がある場合は、いつも使う	16.7%										
②で選択した状況がある場合は、時々使う	82.9%										
②で選択した状況の有無にかかわらず、いつも使う	0.4%										
<b>合計 (いつも使う + 時々使う)</b>	<b>99.6%</b>										
<p>Q4-④バリアフリートイレの利用にためらいは感じますか。</p> <p>(1つ選択)</p> <p>※[Q4-②]で「自身が車椅子使用者であるため」以外を選択した人</p> <p>1,044人に質問</p>	<p>バリアフリートイレの利用にためらいを「感じる」と答えた人が52.3%と半数を超えている。一方、「感じない」と答えた人は47.7%であった。</p>  <table border="1"> <caption>Q4-④ バリアフリートイレの利用にためらいを感じるかどうか</caption> <thead> <tr> <th>感じるかどうか</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感じる</td> <td>52.3%</td> </tr> <tr> <td>感じない</td> <td>47.7%</td> </tr> </tbody> </table>	感じるかどうか	割合	感じる	52.3%	感じない	47.7%				
感じるかどうか	割合										
感じる	52.3%										
感じない	47.7%										

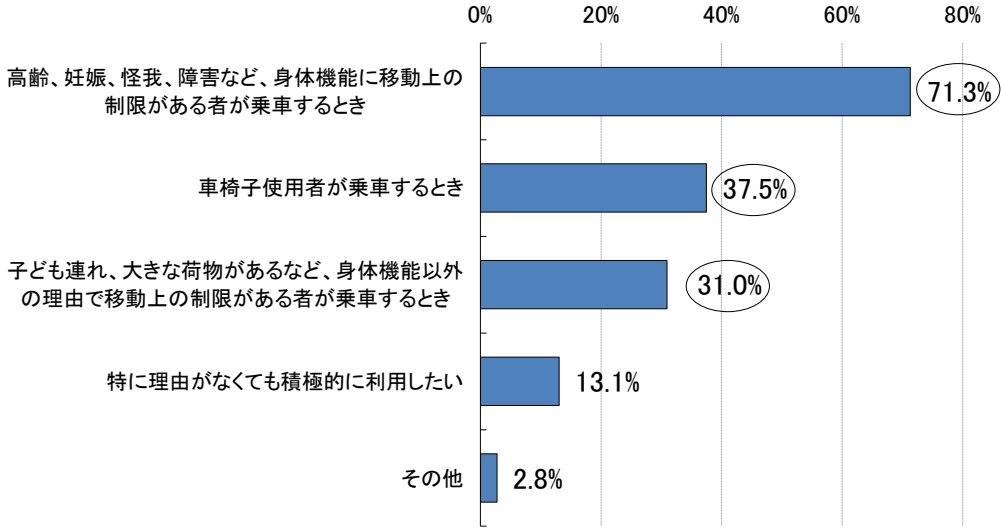
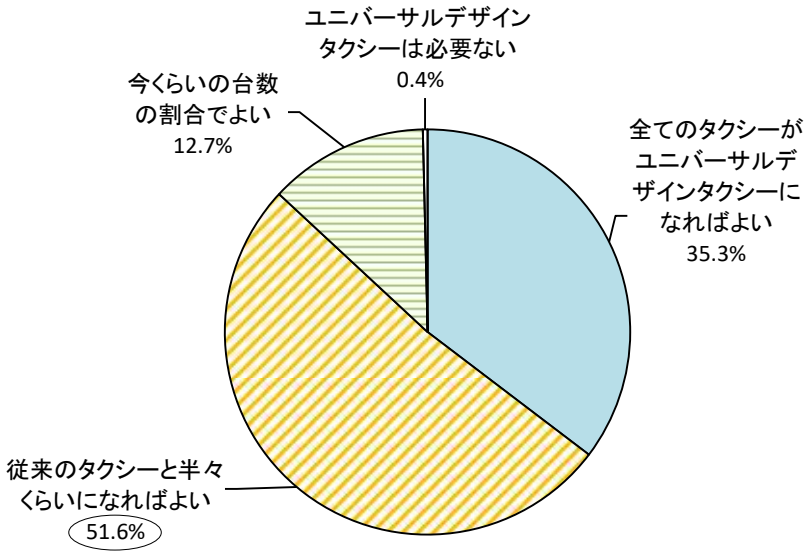
項目	アンケート結果																				
<p><b>車椅子利用者利用駐車施設の利用実態</b></p> <p>Q5 車椅子利用者利用駐車施設（いわゆる車椅子用駐車場。幅広で車椅子マークが表示された駐車区画）について</p> <p>Q5-①利用したことがありますか。 （1 つ選択）</p>	<p>車椅子利用者利用駐車施設（いわゆる車椅子用駐車場。幅広で車椅子マークが表示された駐車区画）を利用したことが「ある」と答えた人が 17.0%であった一方、「ない」と答えた人は 83.0%と大半を占めている。</p>  <table border="1"> <caption>Q5-① 利用したことがありますか</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ある</td> <td>17.0%</td> </tr> <tr> <td>ない</td> <td>83.0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	ある	17.0%	ない	83.0%														
回答	割合																				
ある	17.0%																				
ない	83.0%																				
<p>Q5-②なぜ利用したかを教えてください。 （3 つまで選択可）</p> <p>※[Q5-①]で「ある」と回答した人</p> <p>275 人（17.0%）に質問</p>	<p>「自身や同乗者の中に車椅子利用者がいたため（51.6%）」が最も多く、次いで「高齢者や子供が同乗していたため（29.1%）」、「出入口付近への駐車が必要な身体的な状況が生じていたため（例：妊娠のため、長距離の歩行が困難など）（25.8%）」が続いている。</p>  <table border="1"> <caption>Q5-② なぜ利用したか（※[Q5-①]で「ある」と回答した人）</caption> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自身や同乗者の中に車椅子利用者がいたため</td> <td>51.6%</td> </tr> <tr> <td>高齢者や子供が同乗していたため</td> <td>29.1%</td> </tr> <tr> <td>出入口付近への駐車が必要な身体的な状況が生じていたため（例：妊娠のため、長距離の歩行が困難など）</td> <td>25.8%</td> </tr> <tr> <td>乗降に広い空間が必要となる身体的な状況で生じていたため（例：骨折し松葉杖を使用していた等）</td> <td>18.9%</td> </tr> <tr> <td>車椅子利用者利用駐車施設以外の区画に空きがなかったため</td> <td>12.0%</td> </tr> <tr> <td>緊急の用件があったため（例：急病人を病院に送迎するなど）</td> <td>4.4%</td> </tr> <tr> <td>一般の区画の幅が狭いため</td> <td>0.4%</td> </tr> <tr> <td>屋根がある、出入口付近であるなど、便利であるため</td> <td>0.4%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5.8%</td> </tr> </tbody> </table>	理由	割合	自身や同乗者の中に車椅子利用者がいたため	51.6%	高齢者や子供が同乗していたため	29.1%	出入口付近への駐車が必要な身体的な状況が生じていたため（例：妊娠のため、長距離の歩行が困難など）	25.8%	乗降に広い空間が必要となる身体的な状況で生じていたため（例：骨折し松葉杖を使用していた等）	18.9%	車椅子利用者利用駐車施設以外の区画に空きがなかったため	12.0%	緊急の用件があったため（例：急病人を病院に送迎するなど）	4.4%	一般の区画の幅が狭いため	0.4%	屋根がある、出入口付近であるなど、便利であるため	0.4%	その他	5.8%
理由	割合																				
自身や同乗者の中に車椅子利用者がいたため	51.6%																				
高齢者や子供が同乗していたため	29.1%																				
出入口付近への駐車が必要な身体的な状況が生じていたため（例：妊娠のため、長距離の歩行が困難など）	25.8%																				
乗降に広い空間が必要となる身体的な状況で生じていたため（例：骨折し松葉杖を使用していた等）	18.9%																				
車椅子利用者利用駐車施設以外の区画に空きがなかったため	12.0%																				
緊急の用件があったため（例：急病人を病院に送迎するなど）	4.4%																				
一般の区画の幅が狭いため	0.4%																				
屋根がある、出入口付近であるなど、便利であるため	0.4%																				
その他	5.8%																				

項目	アンケート結果										
<p>Q5-③車椅子利用者利用駐車施設を利用する頻度を教えてください。</p> <p>(1つ選択)</p> <p>※[Q5-①]で「ある」と回答した人</p> <p>275 人 (17.0%) に質問</p>	<p>②で選択した状況がある場合は、『使う』(「いつも使う」＋「時々使う」)と答えた人が 99.6%であった一方、「②で選択した状況の有無にかかわらず、いつも使う」と答えた人は 0.4%であった。</p>  <table border="1"> <caption>Q5-③ アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>状況</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②で選択した状況がある場合は、いつも使う</td> <td>33.4%</td> </tr> <tr> <td>②で選択した状況がある場合は、時々使う</td> <td>66.2%</td> </tr> <tr> <td>②で選択した状況の有無にかかわらず、いつも使う</td> <td>0.4%</td> </tr> <tr> <td><b>合計 (いつも使う)</b></td> <td><b>99.6%</b></td> </tr> </tbody> </table>	状況	割合	②で選択した状況がある場合は、いつも使う	33.4%	②で選択した状況がある場合は、時々使う	66.2%	②で選択した状況の有無にかかわらず、いつも使う	0.4%	<b>合計 (いつも使う)</b>	<b>99.6%</b>
状況	割合										
②で選択した状況がある場合は、いつも使う	33.4%										
②で選択した状況がある場合は、時々使う	66.2%										
②で選択した状況の有無にかかわらず、いつも使う	0.4%										
<b>合計 (いつも使う)</b>	<b>99.6%</b>										
<p>Q5-④車椅子利用者利用駐車施設の利用にためらいは感じますか。</p> <p>(1つ選択)</p> <p>※[Q5-②]で「自身や同乗者の中に車椅子使用者がいたため」以外を選択した人</p> <p>133 人に質問</p>	<p>車椅子利用者利用駐車施設の利用にためらいを「感じる」と答えた人が 72.9%と大半を占めている。一方、「感じない」と答えた人は 27.1%であった。</p>  <table border="1"> <caption>Q5-④ アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>感情</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感じる</td> <td>72.9%</td> </tr> <tr> <td>感じない</td> <td>27.1%</td> </tr> </tbody> </table>	感情	割合	感じる	72.9%	感じない	27.1%				
感情	割合										
感じる	72.9%										
感じない	27.1%										



項目	アンケート結果														
<p><b>車椅子利用者利用駐車施設の不適正利用の防止に向けた取組</b></p> <p>Q6 車椅子利用者利用駐車施設の不適正利用を防ぐために、どの程度の取組が最も効果的かつ現実的だと思いますか。</p> <p>(1つ選択)</p> <p>*「不適正利用」とは、車椅子利用者利用駐車施設に駐車する理由がないにもかかわらず、これを利用することをいいます。</p>	<p>車椅子利用者利用駐車施設の不適正利用の防止対策として「車椅子用駐車区画への利用対象者の明示」と答えた人が最も多く、27.5%であった。</p>  <table border="1"> <caption>車椅子利用者利用駐車施設の不適正利用の防止対策の取組</caption> <thead> <tr> <th>取組</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車椅子用駐車区画への利用対象者の明示</td> <td>27.5%</td> </tr> <tr> <td>ポスターの掲示など、不適正利用の防止のための普及啓発活動</td> <td>13.9%</td> </tr> <tr> <td>駐車区画にゲート(遮断棒)等を設置、対象者のみがゲートを開放して駐車できるなど、物理的に不適正利用ができない仕組の導入</td> <td>17.4%</td> </tr> <tr> <td>不適正利用に対し、駐車料金に加えて特別料金(数千円程度)を徴収</td> <td>17.3%</td> </tr> <tr> <td>施設管理者や警備員による見回り</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>俗にいう警告書などを車両の窓に貼付</td> <td>11.4%</td> </tr> </tbody> </table>	取組	割合	車椅子用駐車区画への利用対象者の明示	27.5%	ポスターの掲示など、不適正利用の防止のための普及啓発活動	13.9%	駐車区画にゲート(遮断棒)等を設置、対象者のみがゲートを開放して駐車できるなど、物理的に不適正利用ができない仕組の導入	17.4%	不適正利用に対し、駐車料金に加えて特別料金(数千円程度)を徴収	17.3%	施設管理者や警備員による見回り	12.5%	俗にいう警告書などを車両の窓に貼付	11.4%
取組	割合														
車椅子用駐車区画への利用対象者の明示	27.5%														
ポスターの掲示など、不適正利用の防止のための普及啓発活動	13.9%														
駐車区画にゲート(遮断棒)等を設置、対象者のみがゲートを開放して駐車できるなど、物理的に不適正利用ができない仕組の導入	17.4%														
不適正利用に対し、駐車料金に加えて特別料金(数千円程度)を徴収	17.3%														
施設管理者や警備員による見回り	12.5%														
俗にいう警告書などを車両の窓に貼付	11.4%														
<p><b>タクシーの利用頻度</b></p> <p>Q7 普段タクシーをどの程度使いますか。</p> <p>(1つ選択)</p>	<p>タクシーを利用する頻度について「年に1回未満」と答えた人が最も多く、60.3%と大半を占めている。</p>  <table border="1"> <caption>タクシーの利用頻度</caption> <thead> <tr> <th>頻度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年に1回未満</td> <td>60.3%</td> </tr> <tr> <td>年に数回程度</td> <td>29.9%</td> </tr> <tr> <td>月に1回程度</td> <td>7.6%</td> </tr> <tr> <td>週に1回程度</td> <td>2.2%</td> </tr> </tbody> </table>	頻度	割合	年に1回未満	60.3%	年に数回程度	29.9%	月に1回程度	7.6%	週に1回程度	2.2%				
頻度	割合														
年に1回未満	60.3%														
年に数回程度	29.9%														
月に1回程度	7.6%														
週に1回程度	2.2%														

項目	アンケート結果																																
ユニバーサルデザインタクシーの認知度	「どのようなタクシーかは知らなかったが、写真のようなタクシーをまちで見たことがある」と答えた人が最も多く、42.0%であった。																																
Q8 ユニバーサルデザインタクシーを知っていましたか。	年代別では10・20代と30代は「見たことがない」と答えた人が最も多く、40代以上では「どのようなタクシーかは知らなかったが、写真のようなタクシーをまちで見たことがある」と答えた人が最も多かった。																																
(1つ選択)																																	
*「ユニバーサルデザインタクシー」とは、車椅子使用者に限らず、足腰の弱い高齢者、ベビーカー利用の親子連れ、妊娠中の方など、みんなが使いやすい新しいタクシーです。街中で呼び止めても良し、予約しても良しの「誰もが普通に使える」一般のタクシーであり、運賃も一般のタクシーと同一料金です。																																	
	<div>全体</div> <div><table><thead><tr><th>認知度</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>知っていた</td><td>30.4%</td></tr><tr><td>見たことがない</td><td>27.6%</td></tr><tr><td>どのようなタクシーかは知らなかったが、写真のようなタクシーをまちで見たことがある</td><td>42.0%</td></tr></tbody></table></div>	認知度	割合	知っていた	30.4%	見たことがない	27.6%	どのようなタクシーかは知らなかったが、写真のようなタクシーをまちで見たことがある	42.0%																								
認知度	割合																																
知っていた	30.4%																																
見たことがない	27.6%																																
どのようなタクシーかは知らなかったが、写真のようなタクシーをまちで見たことがある	42.0%																																
	<div>年代別</div> <div><table><thead><tr><th>年代</th><th>知っていた</th><th>見たことがない</th><th>どのようなタクシーかは知らなかったが、写真のようなタクシーをまちで見たことがある</th></tr></thead><tbody><tr><td>10・20代</td><td>24.4%</td><td>26.8%</td><td>48.8%</td></tr><tr><td>30代</td><td>17.3%</td><td>38.8%</td><td>43.9%</td></tr><tr><td>40代</td><td>29.5%</td><td>42.9%</td><td>27.6%</td></tr><tr><td>50代</td><td>30.3%</td><td>43.3%</td><td>26.4%</td></tr><tr><td>60代</td><td>33.1%</td><td>41.3%</td><td>25.6%</td></tr><tr><td>70代</td><td>31.4%</td><td>44.8%</td><td>23.8%</td></tr><tr><td>80代～</td><td>33.0%</td><td>37.1%</td><td>29.9%</td></tr></tbody></table></div>	年代	知っていた	見たことがない	どのようなタクシーかは知らなかったが、写真のようなタクシーをまちで見たことがある	10・20代	24.4%	26.8%	48.8%	30代	17.3%	38.8%	43.9%	40代	29.5%	42.9%	27.6%	50代	30.3%	43.3%	26.4%	60代	33.1%	41.3%	25.6%	70代	31.4%	44.8%	23.8%	80代～	33.0%	37.1%	29.9%
年代	知っていた	見たことがない	どのようなタクシーかは知らなかったが、写真のようなタクシーをまちで見たことがある																														
10・20代	24.4%	26.8%	48.8%																														
30代	17.3%	38.8%	43.9%																														
40代	29.5%	42.9%	27.6%																														
50代	30.3%	43.3%	26.4%																														
60代	33.1%	41.3%	25.6%																														
70代	31.4%	44.8%	23.8%																														
80代～	33.0%	37.1%	29.9%																														

項目	アンケート結果												
<p><b>ユニバーサルデザインタクシーを利用したい機会</b></p> <p>Q9 ユニバーサルデザインタクシーをどのような場合に利用したいですか(利用したことがある場合を含みます)。(2つ選択)</p>	<p>「高齢、妊娠、怪我、障害など、身体機能に移動上の制限がある者が乗車するとき(71.3%)」が最も多く、次いで「車椅子使用者が乗車するとき(37.5%)」、「子ども連れ、大きな荷物があるなど、身体機能以外の理由で移動上の制限がある者が乗車するとき(31.0%)」が続いている。</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>利用したい場合</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢、妊娠、怪我、障害など、身体機能に移動上の制限がある者が乗車するとき</td> <td>71.3%</td> </tr> <tr> <td>車椅子使用者が乗車するとき</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>子ども連れ、大きな荷物があるなど、身体機能以外の理由で移動上の制限がある者が乗車するとき</td> <td>31.0%</td> </tr> <tr> <td>特に理由がなくても積極的に利用したい</td> <td>13.1%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2.8%</td> </tr> </tbody> </table>	利用したい場合	割合	高齢、妊娠、怪我、障害など、身体機能に移動上の制限がある者が乗車するとき	71.3%	車椅子使用者が乗車するとき	37.5%	子ども連れ、大きな荷物があるなど、身体機能以外の理由で移動上の制限がある者が乗車するとき	31.0%	特に理由がなくても積極的に利用したい	13.1%	その他	2.8%
利用したい場合	割合												
高齢、妊娠、怪我、障害など、身体機能に移動上の制限がある者が乗車するとき	71.3%												
車椅子使用者が乗車するとき	37.5%												
子ども連れ、大きな荷物があるなど、身体機能以外の理由で移動上の制限がある者が乗車するとき	31.0%												
特に理由がなくても積極的に利用したい	13.1%												
その他	2.8%												
<p><b>今後のユニバーサルデザインタクシーの普及</b></p> <p>Q10 現在、本県のユニバーサルタクシーの普及率は約13%(R5年度末)ですが、今後の普及についてどう思いますか。(1つ選択)</p>	<p>本県における今後のユニバーサルデザインタクシーの普及率について「従来のタクシーと半々くらいになればよい」と答えた人が51.6%と半数を超えた。</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>従来のタクシーと半々くらいになればよい</td> <td>51.6%</td> </tr> <tr> <td>全てのタクシーがユニバーサルデザインタクシーになればよい</td> <td>35.3%</td> </tr> <tr> <td>今くらいの台数の割合でよい</td> <td>12.7%</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルデザインタクシーは必要ない</td> <td>0.4%</td> </tr> </tbody> </table>	回答内容	割合	従来のタクシーと半々くらいになればよい	51.6%	全てのタクシーがユニバーサルデザインタクシーになればよい	35.3%	今くらいの台数の割合でよい	12.7%	ユニバーサルデザインタクシーは必要ない	0.4%		
回答内容	割合												
従来のタクシーと半々くらいになればよい	51.6%												
全てのタクシーがユニバーサルデザインタクシーになればよい	35.3%												
今くらいの台数の割合でよい	12.7%												
ユニバーサルデザインタクシーは必要ない	0.4%												

※ 報告書中の数字は、四捨五入による端数を調整していないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

【 問い合わせ先 】 総務部広報広聴課 (TEL078-362-3022)